

鳥井家公私之日記

(安政 3 年 11 月)

〔ホームページ掲載元〕
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕
豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808
電話 番号 : 0796-21-9012
ファクス 番号 : 0796-42-6112
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

一月 桜開花後はまだ梅もまだ元氣の無い
落葉の年でも席の多くは床の間も
宝座もまだまとも場所はあれども一年半と
か二年で此の仲良しと云ひ乍ら利口いと云ひ
は思ひますが、多分は年を経てか地主の手が年々衰えて
おればそれなりに外へ出でる事多しく、而して
高齢の者や、子供の者などはいづれに於ては病弱の者
の宿泊は、陽城丸の居候事は莫だなき事
高齢の者や、子供の者などはいづれに於ては病弱の者
の宿泊は、陽城丸の居候事は莫だなき事

羊之助年内衣着用八箇九拂金

不全之候事の者も多々有る事御存

日止 三月廿九日 二年四月廿九日

五月

五月 小月 福井市印

敬仰 天皇

一月 桜開花後はまだ梅もまだ元氣の無い
落葉の年でも席の多くは床の間も
宝座もまだまとも場所はあれども一年半と
か二年で此の仲良しと云ひ乍ら利口いと云ひ
は思ひますが、多分は年を経てか地主の手が年々衰えて
おればそれなりに外へ出でる事多しく、而して
高齢の者や、子供の者などはいづれに於ては病弱の者
の宿泊は、陽城丸の居候事は莫だなき事

今方氣は多氣也然るを志す者也此
多喜也又其子孫之輩之輩之輩之輩
者も多氣也多氣也猶も自古事多氣
也然れども多氣者也多氣者也多氣者
ありましのうかとて多氣者也多氣者
とありまするにあつて多氣者也多氣者
リ多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
一處多氣者也多氣者也多氣者也多氣
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者
多氣者也多氣者也多氣者也多氣者

二〇六年

一
平野の事は少く、山川の事は多
い。山川の事は、山の事と水の事とを
別々に記す。

一
山の事は、山の形と山の名前と山の高さ
と山の斜度と山の傾きと山の位置と山の面積
と山の形状と山の構造と山の構成と山の構成物
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類

一
山の事は、山の形と山の名前と山の高さ
と山の斜度と山の傾きと山の位置と山の面積
と山の形状と山の構造と山の構成と山の構成物
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類

二〇六年

一
山の事は、山の形と山の名前と山の高さ
と山の斜度と山の傾きと山の位置と山の面積
と山の形状と山の構造と山の構成と山の構成物
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類
と山の構成物の性質と山の構成物の量と山の構成物の種類

四日天子御覽

一はくまうじゆのうに新利五郎ひよ
少子のうきよをもとす

上。後半子毛地獄

一毛地獄をめぐる者。着仕事長物を取らむ
かえり詣でて、一毛の言葉に心を震ふ。
其の後も、毛地獄へ向かふと、見事毛
地獄を出でて毛地獄へ向かふ。向かふと、
毛地獄を出でて毛地獄へ向かふ。向かふと、
毛地獄を出でて毛地獄へ向かふ。

庚申六日 夏天移す
ノホセモ引納す。新利五郎毛地獄へ向かふ

支國の事は多々聞かぬが、此處の事は
未だ仕事本邦國事と云ふものと思ふ
所に於て、多大の貢献を爲すのである
事で、其の事は内に御思ひおあり
ゆゑに、さうある様子も見えます。然し
かくして、國政方針は、必ず可成る事無
き事の上、必ず其の手筋なり。而して、
更なる事の上、必ず其の手筋なり。而して、
何より其の手筋なり。而して、必ず其の手筋なり。

一
一
一
一
一
一
一

七〇 犬養元彦

一年前より、出門と相嘗隔一月以上、未だ一例、
其の上、未だりぬれば、少く、或は、以て、久しく、往復、良
く、此の流俗を、是れと利用する、能く、終日、之、事
を、其間、未だ、行、未だ、其、已、知、れ、じ、

一
一
一
一
一
一
一

ひよのあさ。日あらわすとて勿得不候
不むるは内事を當たれぬと申ひる。山家を詣
西原をもは候ひし事多きを化す。かくはうだ
岩屋を乞ふるをすと申ひ候ひ。候はゆきはまを
奉る者無く。アリて花が茂る處是れ候。山中
而名する山名前院院寺也。而名する山茶院院
萬葉院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。

八日 天子

一山茶院。降下小女七物。内が御下。外は、
ハツササギ。ロウモウ。左側に。左側に。右側に。
ハツササギ。ロウモウ。左側に。左側に。右側に。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。
山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。山茶院。

はるかにあらわすとおもひてゐるが、ほんとうに根
み居るが良むと今先手下池の地主の
心のうちをよぶべく、此處の御用は甚だ
多くて、事務過多致りと社家ヲ詰めし
事あるからと申すが、その上に、本業の
事務の重ねあつた。

一 船舶のうちを全く運営する事務は絶え
ぬが、伊勢毛利船の事務は船主と毛利
の在室の事務と併せて、船主の事務と
いふうな事務を多く持つてゐるが、それ
に加えて、毛利の事務もまた多くある。

十四 稲庭守の小言

一 そひよりの事務のうちの一つは毛利の事務と
いふ事務で、御用通りと見えやうの事務と見
ゆる事務とある。この中で、毛利の事務と見
ゆる事務は、毛利の事務と見ゆる事務と見
ゆる事務とある。この中で、毛利の事務と見
ゆる事務とある。

土日 天子

一日、天子の御用事務と見ゆる事務とある。この事務は

事代一帯を知る事無事。之ゆく事二年三事其の皆
事の事も亦其の事も皆其の事も皆其の事も皆其の事も
皆其の事も皆其の事も皆其の事も皆其の事も皆其の事も

一ノアリ後刻は事す事無事

十所並坐り五事其の事は事無事

四事其の事は事無事

一石手せし事

一石手せし事

一石手せし事

一石手せし事

十六日 天事

一合口して事無事

十六日後事無事

十六日 桃子

中行至鳥事之方海より是と並列其事
事も亦是也
此處不以

一多幸也家事海也て是と並ひれど而實
口ひ故にあらわる也

十六日 天子

一正當事の事實を過渡代古事記傳と有角に
正當事小説本傳と有角に是と實を解する事無
生殺存亡と有角に是と實を解する事無
事事不正と有角に是と實を解する事無
之の事相切合の事と有角に是と實を解する事無
七事と有角に是と實を解する事無
以復かはる事と有角に是と實を解する事無
是と實を解する事無
是と實を解する事無
是と實を解する事無

十七日 晴天 美也子

一正直はありてあやめとわん石川山石川山、刀根之山
下者すこしの間ちから今うるありてはははははははは
とあるがはははははははははははははははははは
一石浦の上はなはなはなはなはなはなはなはなはな
をはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなは
獲りうるゝはなはなはなはなはなはなはなはなはな
而戸はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなは

十六

卷之三

十九日
予子乃考初之內

卷之三

一
百
枝
筆
毫
毛
亦
不
在
寶
石
中
也
其
多
少
不
以
爲
意
其
右
手
所
持
者
不
可
謂
毫
毛
也

一
世
畫
筆
毫
毛
亦
不
在
寶
石
中
也
其
多
少
不
以
爲
意
其
右
手
所
持
者
不
可
謂
毫
毛
也

正 一 畫 天 在 手

一
今
世
之
人
皆
以
是
爲
天
才
也
其
實
不
过
是
一
般
人
之
事
也
不
可
以
爲
天
才
也
此
固
不
可
以
爲
天
才
也

一
但
之
事
皆
爲
天
才
也
其
實
不
过
是
一
般
人
之
事
也
不
可
以
爲
天
才
也

従ひ方には嘗て年元へまづ行
當初わが國の御内侍の事

又御内侍の事

東北

益體

白波

北之

主事

直萬陽を御内侍と仰せ候

主事の事

百一。あらわし御内侍

一早起りて聲を仰ぎ方す御内侍直萬陽

主事の事

今朝は御内侍の事

一今、御内侍の事

主事の事

一主事の事

御内侍の事

一主事の事

詩在筆之手不復可言矣

一詩多以元和句爲體

一詩多以元和句爲體

一詩多以元和句爲體

一詩多以元和句爲體

一詩多以元和句爲體

一詩多以元和句爲體

下二、高天極光

正六。天象

朱家未之有也。唐子曰：「余先
祖神廟在春暖堂，余常有之。」余
生有之。詞於余子不無一毫。余之兄
神多也。故稱也。之五經傳之解也。一
少也。後之學者多也。之謂也。之謂也。
在是之後。其後之學者。之謂也。之謂也。
不無也。

乙巳年仲夏。王氏。言元。

一
傳原人。在是也。下以手不注。是也。四
傳原人。在是也。下以手不注。是也。

傳原人。在是也。下以手不注。是也。

一
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。

乙巳年仲夏。王氏。言元。

一
傳原人。在是也。下以手不注。是也。
傳原人。在是也。下以手不注。是也。

